

算数科 授業改善推進プラン

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

○児童の習熟度に応じた指導や算数的活動や児童相互の話し合い活動を積極的に取り入れることで算数を学ぶ楽しさを感じ、意欲的に取り組む児童が増えた。

(2) 課題

○既習事項を基にして考えることや筋道を立てて説明するような活動が十分でなく、文章の問題を読んで立式することを苦手としている児童が多い。

2 観点ごとの実態・学習効果測定結果の分析

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
知識・技能	・ 10までの数の合成・分解は、比較的理解できている。 ・ 1位数の計算でも、指や算数ブロック等を使う児童が一部いる。	・ 基本的な計算、数の分解や合成が苦手な児童がいる。 ・ 長さの単位や量感や時間の単位の理解に課題がある。	・ 数の分解・合成、九九が身に付いておらず、計算する時間の個人差が大きい。 ・ 長さや量の単位について、理解が不十分な児童が多い。	・ 目標値を大きく下回っている。 ・ 数の仕組みや四則計算など基本的な事項を苦手にして いる児童が多い。 ・ 数直線上に示された問題の理解が不十分な児童が多い。	・ 目標値とほぼ等しい。 ・ 分度器の読み取り方や四角形の作図が苦手な児童が多い。 ・ 数の仕組みや計算の仕方については、概ね達成できている。	・ 目標値を下回っている。 ・ 小数や分数の計算、図形の面積を求める式、時速の単位換算など苦手になっている学習がある。 ・ 多角形や円の性質については概ね理解できている。
思考・判断・表現	・ 自力で文章問題を読み取って、立式することが難しい児童が一部いる。	・ 自分の考えを図や言葉で説明することができる。 ・ 友達に分かりやすく説明することが難しい児童が一部いる。	・ 何を求めて立式するかを考えることに難しさを感じている児童が多い。 ・ 図に表すことや図を使って求めることに難しさを感じている児童が多い。	・ 目標値を大きく下回っている。 ・ あまりのある割り算や文章を読み取って答える問題の正答率が低く、無回答率も高い。	・ 目標値をやや上回っている。 ・ 式から問題を読み取ることが苦手な児童が多い。 ・ グラフや表は正しく読み取れている児童が多い。	・ 目標値を下回っている。 ・ 回答を記述する問題や、割合を答える問題の正答率が低い。 ・ グラフや平均についてはほぼ理解できている。
主体的に学習に取り組む態度	・ 授業外にも問題に取り組むなど、すすんで学習に取り組んでいる。	・ ブロックを操作して考えるなどすすんで学習に取り組む児童が多い。	・ 学習に取り組む姿勢には個人差が大きく、取り掛かるまでに時間がかかる児童が一部いる。	・ 学習意欲はあるが、苦手な領域に主体的に取り組む児童は少ない。	・ 学習意欲の高い児童が多いが、主体的に学習に取り組む態度は個人差が大きい。	・ 学習意欲の高い児童が多いが、主体的に学習に取り組む態度は個人差が大きい。

3 課題と授業の改善策

		1年	2年	3年	4年	5年	6年
課題	知識・技能	・ 10までの加法や減法を素早く正確に計算する力を身に付けること。 ・ 数や量の感覚を身に付けること。	・ 量感や時刻と時間の単位と関係の理解をすること。 ・ 2位数±2位数の繰り上がり、繰り下がり の筆算を正確に行えるようにすること。	・ 数の分解・合成や九九などの計算を素早く正確に行えるようにすること。 ・ 長さや重さなど正しい量感を身に付けさせること。	・ 九九、繰り上がりや繰り下がり の計算、割り算を正確に行えるようにすること。 ・ 1より小さい数の大きさを数直線上に表すこと。	・ 小数のかけ算やわり算の計算を正確に行えるようにすること。 ・ コンパスや分度器の使い方を理解し、正確に作図すること。	・ 速さや割合などの意味を理解すること。 ・ 整数と小数、分数の関係を正しく把握すること。 ・ 小数の計算を正確に行うこと。
	思考・判断・表現	・ 情景絵や文章から、問題の場面を正しく捉え、演算決定をしたり、立式をしたりすること。	・ 分かりやすい説明のために順序立てて説明する力を付けること。	・ 文章問題の題意を正しく捉えること。 ・ 問題の場면을線分図やアレイ図で表して考えること。	・ 式を図に表したり図を読み取ったりすること。	・ 折れ線グラフや表を正確に読み取り、特徴や傾向を捉え、考察すること。	・ 図や式などを用いて、ある2つの数量の関係の比べ方を考察し、場面にあった演算決定をすること。
	主体的に学習に取り組む態度	・ 自分でよく考えて発表すること。	・ 理解が難しい課題に対して消極的な児童がいること。	・ 学習したことを生活やその後の学習に生かすこと。	・ 算数の学ぶことのよさに気付いているが、苦手意識のある問題に対して取り組む意欲が低い児童がいること。	・ 数学のよさに気付いているが、生活場面と結び付けるこのできない児童が多くいること。	・ 数学のよさに気付いているが、多面的に捉え検討し、生活や学習に活用できない児童がいること。

授 業 の 改 善 策	知識・ 技能	・ 10までの加法や減法を繰り返し練習する。 ・ タブレットを活用し、反復練習の習慣を身に付ける。(速度調節あり)	・ 実際に長さを測る活動など算数的活動を多く取り入れる。 ・ 繰り返し計算練習に取り組み、定着を図る。	・ 授業の導入で既習事項の復習の機会を設けるなどして、定着を図る。 ・ 計算練習や反復練習に取り組み、数の分解・合成・正確な九九を身に付けることができるようにする。 ・ 実際に長さや重さを測る算数的活動を多く取り入れる。	・ 復習の時間を増やし、系統性を考えた単元計画を立てる。 ・ 毎時間、前時の振り返りを行い知識・技能の定着を図る。	・ 朝学習や家庭学習を活用し、小数のかけ算やわり算の基礎基本的な計算を正確に行う力を身に付ける。 ・ 単元計画を見直し、必要に応じて、復習の時間等を増やすようにする。	・ これまでに学んだ四則演算（特に小数のわり算）などの基礎基本を確実に身に付ける。 ・ 単位当たり量や、割合を求める問題を他単元でも扱い、定着を図る。
	思考・ 判断・ 表現	・ 声に出して文章を読んだり、絵やアレイ図、言葉に表したりしながら、題意を理解し演算決定や立式ができるようにする。	・ 文章問題で大事な言葉や数字を確認しながら立式ができるようにする。 ・ 計算の仕方など説明する機会を増やし、順序立てて説明することができるようにする。	・ 時刻や時間について、数直線を効果的に活用し、実感を伴って考えることができるようにする。 ・ 文章問題で、分かっていること・求めることに違う下線を引くなどして丁寧にたしかめ、問題場面を正確に把握できるようにする。	・ 計算の工夫や□を使った式、式から問題文を考えるなど思考力を問う活動を取り入れる。 ・ 計算の仕方について説明する機会を増やし、自分の言葉で説明する力を付ける。	・ 円グラフや帯グラフの学習で、折れ線グラフに表したり、読み取ったりする活動の時間を多く取り入れる。 ・ 解決方法や結果について見通しをもたせ、既習事項を活用して、自分の言葉で説明できる時間を設定する。	・ 数直線を活用して、数量の関係や立式の根拠を説明する活動の時間を多くする。
	主体的 に学習 に取り組む 態度	・ 自分の考えをもつための時間をしっかりと確保するようにする。	・ 簡単な問題から取り組ませるようにし、自分の考えに自信をもてるようにする。	・ 学習した事項について自分の言葉でまとめ、分かったことを書かせる。 ・ 日常生活に生かせる場面を紹介して意識付けさせたり、自分で見付けて気付かせたりする。	・ 実態に合わせた指導計画を作成し、ミニテストを繰り返すことで、「できた」経験を積み、学習に前向きに取り組めるようにする。	・ 各単元と関連する既習事項を想起させ、毎時間復習を取り入れることで定着を図り、理解を深める指導を継続して行っていくようにする。	・ 少人数での学び合いを通して「分かる」体験を増やすことで学習に対する意欲を高める。生活や学習に生かせるような気付きを得る機会を設ける。